

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

平成 25 年 2 月 20 日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程・国際コミュニケーション選修 4 年

氏名：関野 崇

派遣先大学名：ハイファ大学（イスラエル）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2011 年 10 月～2012 年 6 月

渡航年月日：2011 年 10 月 1 日

帰国年月日：2012 年 6 月 22 日

派遣先大学における授業等の履修状況

履修期間	授業名	講義時間	単位数
Fall Semester	HEBREW – BEGINNERS	8	6
	CONTEMPORARY ISRAEL	3	3
	LEADERSHIP IN ORGANIZATIONS	3	3
Spring Semester	POSITIVE PSYCHOLOGY	3	3
	ARMS CONTROL IN THE NUCLEAR REALM	3	3
	BIBLICAL THEOLOGY	3	3
	MANAGEMENT AND ORGANIZATIONAL THEORY	3	3

研究・学習概要及び今後の勉学計画

□ハイファ大学及びインターナショナルスクール

（UHIS, University of Haifa International school）の概要

ハイファ大学はイスラエルでヘブライ大学、テルアビブ大学に次いで 3 番目に大きな大学であり、世界中からの留学生に英語での学習が可能な環境を提供するインターナショナルスクールを擁する、リベラルな校風の大学である。

UHIS ではイスラエルならではのユニークな授業を受講することが出来る。授業系統としては、ユダヤ教を中心とした宗教・聖書研究系をはじめ、イスラエルの歴史研究、ジャーナリズム、ビジネス、紛争問題、心理学、語学としてヘブライ語とアラビア語など多岐にわたる。インターナショナルスクールでは1セメスターあたり 100 人程度の留学生を受け入れている。留学生の構成比はアメリカ東海岸からの学部生・大学院生が過半数を占め、次いでドイツからの留学生が多く、その他ヨーロッパ諸国やカナダ、中国や日本からの留学生が数人ずつといった具合であった。



正門をくぐるとエシュコールタワーが見える

一番奥の学生寮まではここから徒歩で十分ほど

□UHIS の授業について

私が留学した 2011 年度の秋学期は 10 月から翌年 1 月まで、春学期は 2 月末から 6 月はじめまでであった。

以下私が受講した授業を簡単に紹介したい、今後留学する際の参考にして欲しい。

セミナー形式の授業やスライドを使った形式の授業には PC を持ち込む



○HEBREW – BEGINNERS

ヘブライ語の授業はウルパンとも呼ばれる形式の集中語学コースで、1 クラスおよそ 20 人以下に設定され、毎日午前中におよそ 1 時間半の授業を行う。最初の 2 週間でヘブライ語の文字を覚え、徐々に使える語彙数を増やしながら簡単な日常会話ができるように演習していく。このヘブライ語の授業形式は日本の語学の授業形式とは違い、会話を重点的に練習する。毎回授業の最初に 2 人 1 組で日常的なシチュエーションの会話をおよそ 1 分間にわたって全員の前で順番に発表していき、間違いがあれば発表のあとに先生や生徒達に指摘してもらえる。このため毎日ペアーで 1 時間ほどかけて台本を作り上げ、暗記できるまで練習する必要がある、毎日かなりの時間をヘブライ語の練習に当てることになるが、その効果は確実に実感することが出来る。語学の授業としてはとても効率のいいシステムで、ヘブライ語が覚えられるだけではなく、英語教師を志す学生にとっても非常に有意義な刺激になると思うので是非受講して欲しいと思う。

○CONTEMPORARY ISRAEL

イスラエルの過去から現代までの歴史、現代のイスラエルを取り巻く環境などについての授業である。担当のイスラエル・ネーマン教授はアメリカ出身であり、受講生の大半がアメリカからの留学生なので授業のスピードはとても早く聞き取るのが大変だが、シオニストの歴史観や宗教観を肌で感じる事ができた。

○LEADERSHIP IN ORGANIZATIONS

ビジネス系のクラスで、授業内で映画を視聴しその登場人物のリーダーシップや、過去のアメリカ大統領のリーダータイプなどを学生の意見を聞きながら実際に分析していった。最初は物怖じして自分の意見を言えなかったが、担当のカルメラ教授のフランクで明るい性格も手伝い、自発的にどんどん意見を言えるようになったのはうれしかった。

○POSITIVE PSYCHOLOGY

心理学の入門クラスで、各種統計を用いて心理学の概要を学習していく。授業のなかでいくつかのテーマについて学習し、授業内で 1 人ずつパワーポイントを用いて好きなテ

ーマ、たとえばユーモアが健康や寿命にもたらす影響など各種統計データを元に研究した結果を発表していくなど。心理学そのものに対する理解が深まった。

○ARMS CONTROL IN THE NUCLEAR REALM

政治学の授業で、核問題を扱う。特にイランの核兵器問題は昨今の中東情勢における重大なテーマであり、この授業でも大きく取り上げられた。授業で北朝鮮の核問題について日本人はどう考えているのかと意見を求められたが、何も言えなかった事が悔しい。授業では学生が出身国にかかわらず実在する国の代表役を演じ政治的なシミュレーションを行い実際の国際情勢を分析していくなど、日本では触れないようなテーマに深く触れていく興味深い授業だった。

○BIBLICAL THEOLOGY

旧約聖書をヘブライ語で読み、解釈を深めていく授業。ユダヤ系の学生が多く、キリスト教徒も数名いた。私のように旧約聖書を読んだことのない学生は宗教に熱心な学生達の知識量に圧倒されるばかりだった。授業ではかなり細かいヘブライ語の解釈について触れ旧約聖書を読み解いていくが、素養のない私には授業の半分も理解できなかったことが悔やまれる。何とか授業についていこうと英語と日本語を対比しながら旧約聖書のモーセ5書を読破したことは教養として収穫だったと思う。

○MANAGEMENT AND ORGANIZATIONAL THEORY

ビジネス系のクラス。秋学期のリーダーシップクラスと同じカルメラ教授の授業で、この授業では主にマネージャーとしてのタイプ・資質の分類や分析を映画の登場人物を通して行っていく。セミナー形式の授業ではないが、受講者が8人だったため積極的に発言しやすい環境だった。個人的に一番好きだった授業はこのマネジメントクラスで、このクラスで学んだことを今後役に立てればと思う。

□今後の勉強計画

これらの授業を通じて国際社会、政治やビジネスを考える知識が身につき、視野が広がったように思う。8ヶ月の留学で英語力も伸び、英語で授業を聞いて理解することは苦勞ではなくなり、文献を読み進めるスピードも上がったと思う。しかし自分の意見を英語で言うには苦勞するし、ライティングのレベルもまだまだで、やっと英語での学問のスタート地点に立てたような思いである。

せつかく少しは使えるようになった英語をこのままにせず、留学をした経験だけでは終わらせないように自ら学び続ける姿勢を大切にしたい。また留學生活を通じて、インターナショナルスクールの留学生達の熱心さ、向上心の強さに感銘を受け、何事にも熱意を持って取り組むことの大切さを実感し、今まで知らなかった歴史、文化に触れることでさらに勉強したいと思えることが増えた。

今回の留学を通して、大学生として勉強できる事の大切さを知り、残りの秋田大学での学びの時間もこれまで以上に有意義なものにしたいと思った。

生活面について

□イスラエルについて

中東の国というと砂漠やラクダに乗ったアラブの商人を思い浮かべるかもしれないが、イスラエルは高度に発展した先進国で、最大の都市テルアビブやハイファは高層ビルが建ち並ぶ近代的な町並みで、グーグルやインテルなどのハイテク産業の重要拠点も置かれている一方、聖地エルサレムをはじめキリスト生誕の地ベツレヘムなど宗教的に重要な歴史ある土地も多く、人口は 700 万人と少ないが世界中から集まったユダヤ人を中心に構成された国民は人種のるつぼのようであり、多様性に満ちあふれている。また、イスラエルでは買い物に行くたびに金属探知ゲートをくぐり鞆の中身を銃を持った警備員にチェックされ、バスに乗れば隣に兵役中の若者がマシンガンを持ったまま乗ってきたりする。それらの点に慣れてしまえば食事もおいしく、物価も日本とあまり変わらず、生活する上で支障は無い。

□ハイファ大学について

ハイファは人口 100 万人のイスラエルで 3 番目の規模を持つ都市で、地中海を望む坂の多い街である。ハイファ大学は町の大部分を占めるカルメル山の頂上にあり、見晴らしもよい。学生数は 2 万人に満たないが、秋田大学と比べると倍の規模である。正面ゲートをくぐるとキャンパスの中はバスの通る一直線の道沿いに全ての建物が並び、バス停が複数個あり、一番奥に学生寮がある。

大学寮前から市内各地を結ぶ複数のバスラインがあり、現金でも乗れるが、54 シェケル（千数百円）で 10 回乗車分をチャージして使える便利なカードもある。深夜でも本数を減らして運行しているので生活の足には大変便利である。

□大学での生活

授業は月曜日から木曜日までで、金土日は休みである。注意したいのがシャバットの金曜日で、金曜日の夕方から土曜日の夕方まではほとんどの店が休みになり、バスの運行本数も極端に少なくなり、寮にある小さなスーパーマーケットも休みになってしまうので、あらかじめ食材を買っておかないと大変である。



キャンパス内には図書館の入っているメインビルディングに銀行・郵便局・パソコンショップなどもあり普段の生活で困ることはない。学生寮はとても大きく 1 つの町のように、1 人部屋と 2 人部屋が選べ、どちらも 6 人で 1 つの共同キッチンと広いリビングダイニングがある。最初に割り当てられた寮はドミトリーメイトが連日夜遅くまで飲んで騒ぐといっ

た部屋で、寮の担当者に部屋を変えてくれと言いにいったが空きがないと断られ、3ヶ月後にやっと静かで平和な部屋に引っ越しが出来た。これには少し参った。

普段の食事はキャンパス内に複数箇所あるカフェテリアでとることも出来る。サンドイッチや肉系の料理、米や中華にマクドナルドなど何でもあり、だいたい味が濃くて量が多く、値段もあまり高くないので食事の心配はしなくても大丈夫だと思う。寮から歩いて行くと結構時間がかかるので、寮のキッチンで自炊することが増えていった。留学生は全員寮に住んでいるので、一緒に夕食を作り、夜までしゃべり通すこともできる。実際に生きた英語を磨くには最高の環境だと思う。

インターナショナルスクールでは **Madrichim** と呼ばれる3人のスタッフが大学や町の案内から留学生の生活のサポート、映画や食事、スポーツ観戦や宿題合宿などのイベント企画、月に1回ほど行われるハイキング主催など、留学生のためにあらゆるサポート体制を用意してくれている。そのなかには砂漠や森の中を重いバックパックを背負って3日間縦走する強烈なハイキングなどもあるが、一生ものの友情を留学生仲間で培えるような、とてもいい体験だった。何か困ったことがあれば **UHS** のスタッフオフィスを訪ねれば、必ず誰かが助けてくれる。

□ハイファ大学への行き方

日本からの直行便はなくヨーロッパ経由か韓国経由の便になる。ハイファ大学からは10月2日に寮に来るようにと指示があった。それより前だと受け入れが出来ず、次の日は学内案内があるので必ず指定された日に到着しなければならない。空港からの行き方はハイファ大学からの案内書類にあるように空港エントランスを出たところでシェルトと呼ばれる乗り合いタクシーに乗ると大学の寮までおよそ1時間半で直行してくれるので荷物が多くても大丈夫である。

全般にわたる感想

イスラエルには日本人が少なく、ハイファ大学にも日本人は全体で3人しかいなかった。そのうち1人は博士課程で接点がありなく、**UHS** には日本人は私を含め2人だけで、これは英語を覚えるには最高の環境だったように思う。留学生同士が英語でコミュニケーションをとる中、日本人2人だけ日本語を使っているのは周囲の留学生とも壁が生まれ私たちの英語力も伸びないと思い、日本人同士でも努めて英語を使うようにすることが出来た。留学をするなら日本人が少ないところへ行った方が英語力を磨きやすいと思う。



エルサレムはハイファからバスで3時間

授業は全体的にレベルが高く、考えていたより要求される知識の敷居がとても高かった。英語力の向上という目的は叶ったと思うが、もっと専門知識のバックボーンを身につけて行けばさらに授業を実りのあるものに

クラスの皆と

出来たと思う。また、これはあとから知ったことだが、UHSには英語を学ぶ語学クラスは用意されていないが、一般クラスの英語クラスに参加することは可能だったようだ。もし知っていたら是非とも参加したかった。今後UHSに留学する学生には参考にして欲しい。

世界中からの留学生と共に過ごした8ヶ月はとても刺激的だった。見知らぬ土地で、不慣れた英語で全てを行わなければならない環境に最初は困惑したが、留学生同士協力して留学生活を乗り切ったことはとても貴重な経験だったと思う。

初めての留学で最初は分からないことだらけで大変だったが、得られたことは何事にも変えられないほど大きい、素晴らしい体験だった。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、支援した下さった皆様、秋田大学に感謝の思いで一杯です。本当にありがとうございました。



大学メインビル展望フロアから